

クラス番号	634	担当教員名	杉木 陽介
テーマ	本人の意思をもとにした障害者支援		
著書・論文 研究課題等	研究課題 肢体不自由児・者及び重症心身障害児・者の意思を尊重した支援場面における関わり方及び 意思決定支援に関わること 論文 「重症心身障害児・者の意思を尊重した実践に関する一考察 ー支援場面のエピソードを中心にー」『保健の科学』 vol.59, 2017		

## ゼミナール概要

キーワード：当事者 支援 コミュニケーション 意思決定支援

目的、内容、方法等：

障害者の権利に関する条約第 19 条では、障害者が「居住地を選択し、及びどこで誰と生活するかを選択する機会を有する」とあります。この記述がもとになって、障害者の意思決定が語られることが多いです。意思決定について、どこで誰と生活するかを選択が挙げられているのは、意思決定について考える上で象徴的だと思います。というのも、誰であっても、どこに住むことを決定することを一人では決定できないからです。土地はどうする、家はどうする、契約は・・・、住みたいという意思を実現するために多くの人が関わります。人との関わりが前提とされています。意思決定とはそんなものではないでしょうか。

私は、言葉(主に音声言語)では、自分の意思が伝わりにくい人たちと関わり、どうしたら、その人たちの思いを知ることができるのか、どうやってその思いを実現していったらいいのか、あるいは、逆に思いの実現が現状でむずかしいときに、本人にどう伝え、どうしていったらいいのかを一緒に考えて教育や福祉に携わってきました。私の取り組みは限られた範囲のものですが、そこで問われる本人の意思の理解、それをもとにした支援は広く福祉や教育の分野に関連すると思っています。日常的なケアの支援から相談支援、特別支援教育、そして行政に携わろうとしている学生諸君の参加を待っています。

授業計画：

3 年次には、障害者、コミュニケーション、意思決定支援などがテーマとなる文献を読み、基礎的な理解と文献レビューの仕方を学びます。そして、次第にみなさん自身が関心のある文献を自分で探して、ゼミ生全員に提起するような方向に進めていきます。授業の進め方はグループ討議が中心ですが、個別対応にも応じます。また、学生同士が支援を受ける側、支援する側になって行うロールプレイング、外に出て障害者に実際に関わる体験する機会の設定、実践者をゲストに招くなどを行い、意思をもとにした関わり方について具体的に学びます。

3 年後期から、卒業論文を意識して取り組みます。卒業研究計画書、執筆構想、研究を進めるために必要な方法(ツールなど)について整理していきます。

4 年次では、個々に進めている卒業論文のレビューをお互いに行いながら、より客観的に妥当性のある論文に仕上げていきます。

## 担当教員からのメッセージ



私が、養護学校の教員をしていたとき、プラトンの著作の購読を行ったことがあります。大学進学をしない生徒たちでした。社会科でソクラテス・プラトンなどを学びますが、知識を得ても仕方ない、ここは実際に読んでみようと思ったわけです。プラトンの著作はソクラテスとだれかとの対話で成り立っています。対話を続ける中で真実を探っていきます。私の生徒たちも一生懸命に読み、考えを深めていきました。ゼミのイメージ、私にとってはこの授業です。対話を通して、一人ではたどり着けない真実に近づいていこう、そんなことがこのゼミでできたらいいと思っています。ちなみに、そこで使用したテキストは、中学生向きに翻案されたジュニア・プラトン全集(多田義雄訳・解説)でした。